

恋人の聖地 愛をたてる

フランスのセント・バレンタイン村



フランス中部にあるバレンタイン村役場。人口はたった約300人

ヨーロッパのフランスに「恋人の聖地」と呼ばれるセント・バレンタイン村があります。毎年2月14日にはお祭りが開かれ、カップルたちがおとずれます。

ローマ帝国時代の3世紀、兵士の結婚は禁じられていました。これに反して、キリスト教の聖職者バレンタインは恋する兵士たちの結婚を認めたため、2月14日に処けいされてしまいました。

キリスト教徒らはこの

2月14日 カップル集まりお祭り

日をバレンタインをしのぶ日と決め、14世紀ごろには「愛をたてる日」として花やカード、キャンディーなどを親しい人にプレゼントする習慣が始まったとされています。バレンタイン村は中世に、フランスの中央(ハート)に当たることから名付けられました。

日本では約60年前、お菓子としてよく食べられるようになったチョコレート、女性から男性におくって愛情を伝える日として定着しました。

お菓子会社などが「自分たちが作ったイベント」と主張していますが、実際はよく分かりません。

日本はチョコや告白定着

「ト」と主張していますが、実際はよく分かりません。

チョコをあげる相手によつて言い方もさまざま。恋人や夫におくる「本命チョコ」、先生や父親への「義理チョコ」、クラスメートらへの「友チョコ」、楽しむ「自分チョコ」などがあります。

ある調査によればチョコの消費量は毎年増加しています。うち約2割がバレンタインデー関連商品。月別では2月が平均の3倍に上ります。まるで日本はチョコバレンタインデーの国です。